

20123456789101112131415

さいたまけんりつ

H 12. 11. 10

No. 78

図書館だより

県立図書館 やくわりとはたらき：児童奉仕



西暦2000年は、
子ども読書年
です。

今年は、
図書館法
施行50周年
です。



お手伝いします。21世紀を生きる子どもたちのために。

本年、西暦2000年は「子ども読書年」です（衆参両院で決議）。21世紀を生きる子どもたちが読書に親しんでもらえるよう、県立図書館では、よみきかせ・おはなし会などをはじめ様々な催しを行っています。本号では、その紹介をいたします。

県立図書館の子ども室には、赤ちゃんが楽しめる絵本から読み物、調べる本、そして海外の児童書と、子どもたちのための本をたくさん用意してあります。また、児童図書研究資料を備え、父母や研究者・児童図書館員の相談にも応じています。

読む人も
読まれる本も
うれしいね



子ども読書年



●おはなし会

ひとりで本が読めるようになって、誰かに読んでもらうのは楽しいものです。子どもたちにも、おはなし会でそんな楽しみを味わってもらいたいと思っています。

県立図書館4館それぞれで、ストーリーテリングや絵本の読み聞かせ、紙芝居など、おはなしの世界を楽しめるよう、職員・ボランティア一同、毎回おもしろいおはなしを用意して、お待ちしております。

一度、お子様とご一緒に、お近くの県立や市町村立図書館で、催しに参加してみてください。



●読書マラソン

今年で3年目となる「読書マラソン」が9月から始まりました。

各県立図書館と一部の市町村立図書館で、参加を受け付けています。

渡されたノートに、本を1冊読むごとに、シールを1枚貼っていきます。

平成13年2月までの間に、30冊の読破で完走となるゴールを目指して、多くの子どもたちが図書館に来ています。

●布(ぬの)の絵本

県立久喜図書館では、障害のある子どもたちにも楽しんでもらえる、布(ぬの)の絵本の貸出をしています。

布(ぬの)の絵本は、紙に印刷された絵本と違い、ひもやファスナー、スナップなどを使って、“絵”を動かしたり着脱することができます。指先を使うことで、遊びながら創造力、観察力、動作などの能力が養われます。

何より布の持つ柔らかさ、暖かさ、優しさが、多くの子どもたちに喜ばれています。



●総合的な学習の時間

平成12年度から移行措置が始まった、小・中学校の「総合的な学習の時間」では、学校図書館や公共図書館を活用することが多くなってきました。

県立川越図書館には中学校から写真のように大勢の生徒たちが訪れました。

市町村立図書館でも資料を求めて来館する子どもが増え、図書館も子どもたちの資料要求に応えようとがんばっています。



2000年は、「子ども読書年」です。県立図書館では、今年度は特に児童資料の充実を図ります。海外で賞を受けた作品の原書をはじめ、近年、注目されているアジア地域の本をそろえていきます。また、一人でも多くの子どもたちが楽しい本と出会えるように、児童書の推薦リスト『よんでみよう』を作りました。

この他にも読んで欲しい本が図書館にはたくさんあります。県立図書館では、読書をするための環境を整えるとともに、子どもたちの毎日の生活の中に図書館が活かされることを願っています。

県立図書館も、今後、市町村との、より一層の連携が必要になってきています。例えば、図書館がまだない町や村の小学校のために、県立熊谷図書館では調べ学習を支援する「調べ学習文庫」を用意しました。調べ学習に役立つ基本的な図書を、テーマ別に35冊程度のセットにして長期間貸し出しています。

飯能市立こども図書館 ○○○○○

奥武蔵の山ふところ、名栗川にかかる割岩橋のたもとに県内で唯一のこども図書館があります。

地元の西川材を生かした木造建築は、こどももおとなもいっしょに本に親しんで欲しいというコンセプトを基に建てられました。手づくり絵本講座などの行事にも力をいれています。「おはなしのじかん」が毎日(火～金)あり、こどももおとなも絵本の読み聞かせや紙芝居を楽しむことができます。

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜日(祝日の場合は火曜日)・祝日・年末年始・月末整理日
(日曜日の場合は火曜日)・図書整理期間

本の貸出：飯能市、所沢市、狭山市、入間市、日高市、名栗村の方

交通：西武池袋線飯能駅より徒歩10分、JR八高線東飯能駅より徒歩20分

住所：〒357-0037飯能市稻荷町25-8

TEL：0429-74-2414 FAX：0429-74-2997

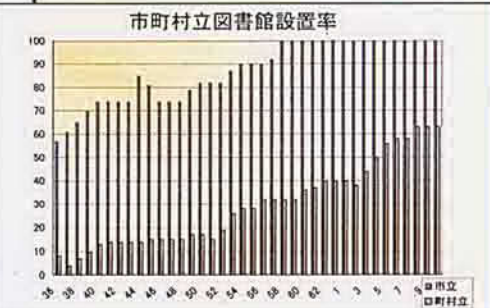
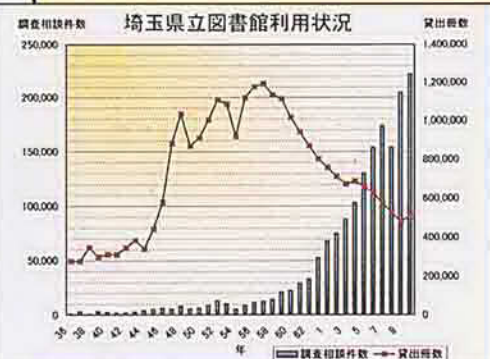


図書館法施行50周年

— 県立図書館も節目の年を迎えました! —

昭和25年に図書館法が施行されてから本年は50周年の年に当たります。図書館も年齢にたとえると、浦和図書館(現在の建物)が40歳、熊谷図書館が30歳、川越図書館が25歳、久喜図書館

- 昭和35年3月 浦和図書館の現在の建物が完成
- 昭和45年7月 熊谷図書館が開館
- 昭和50年11月 川越図書館が開館
- 昭和51年4月 浦和図書館で「協力車」の運行開始
- 昭和55年6月 久喜図書館が開館
- 昭和56年10月 浦和で全国図書館大会(第67回)開催
- 昭和60年3月～「埼玉県立図書館合同蔵書目録(第1期)」刊行
- 平成2年1月～「埼玉県立図書館合同蔵書目録(第2期)」刊行
- 平成7年3月 「彩-BISC」(CD-ROM版合同蔵書目録)刊行
- 平成9年7月 書誌データ入力システム稼働
- 平成11年4月 祝日開館実施
- 平成11年12月 蔵書管理コンピュータ化事業開始(3か年の予定)



が20歳と、それぞれ節目の年を迎えます。

そこで、県立図書館のあゆみを振り返ってみることにしました。

40年前と今とでは、県立図書館の利用状況や県内市町村立図書館の設置状況にも大きな違いがあります。

市町村立図書館が充実する中、県立図書館では個人貸出冊数は減っていますが、調査相談件数は年を追うごとに増えていることがわかります。

県立図書館は、これからも県民の皆さんの調査研究活動を支援してまいります。わからないことや調べたいことがありましたら、お気軽に御相談ください。